

^ 13
3838
9

玉璣物語

三十三編

三十四編

門へ13
3838
號
卷 9

高き心

三十一と海の下

廣者梓



國作

魚

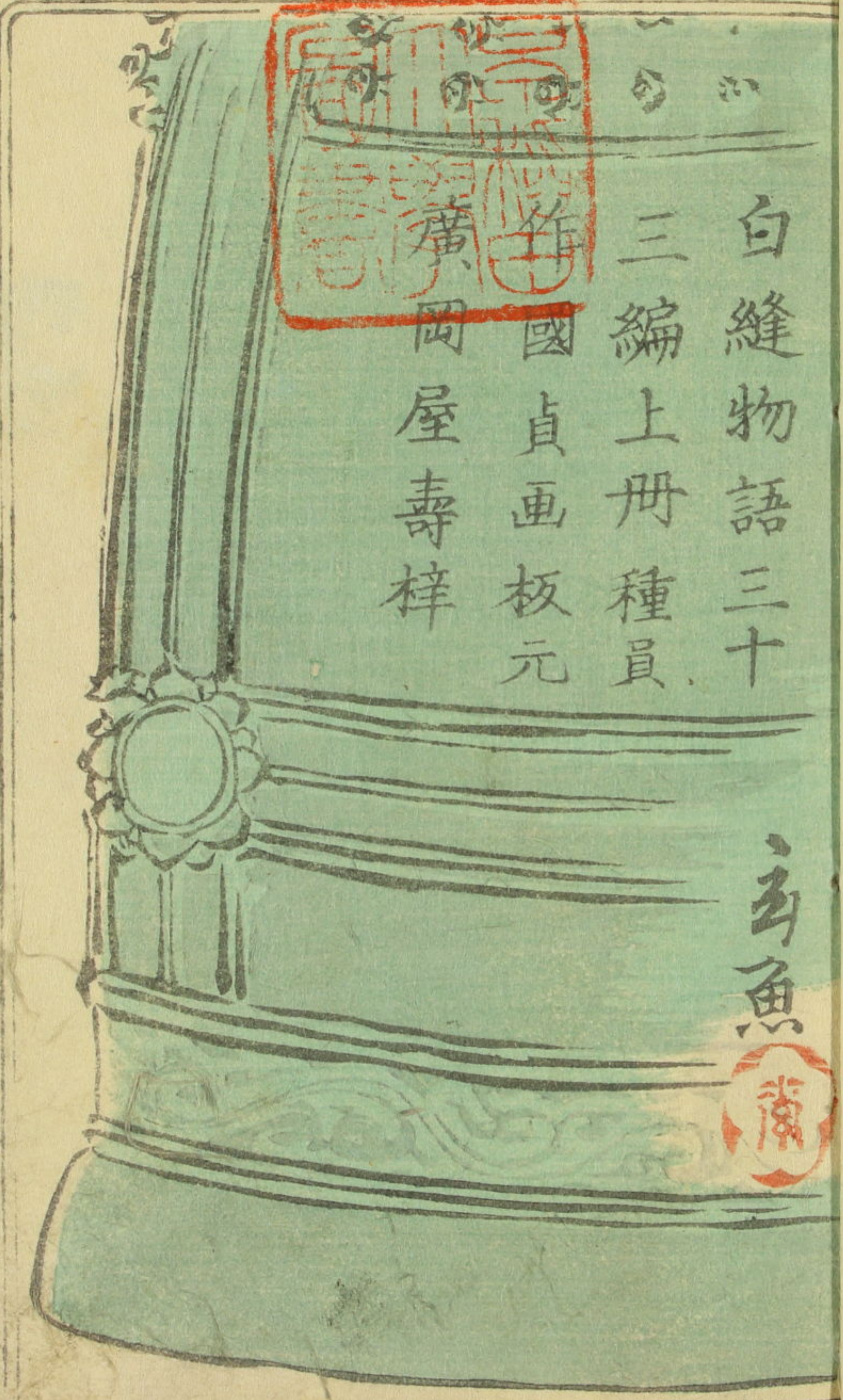
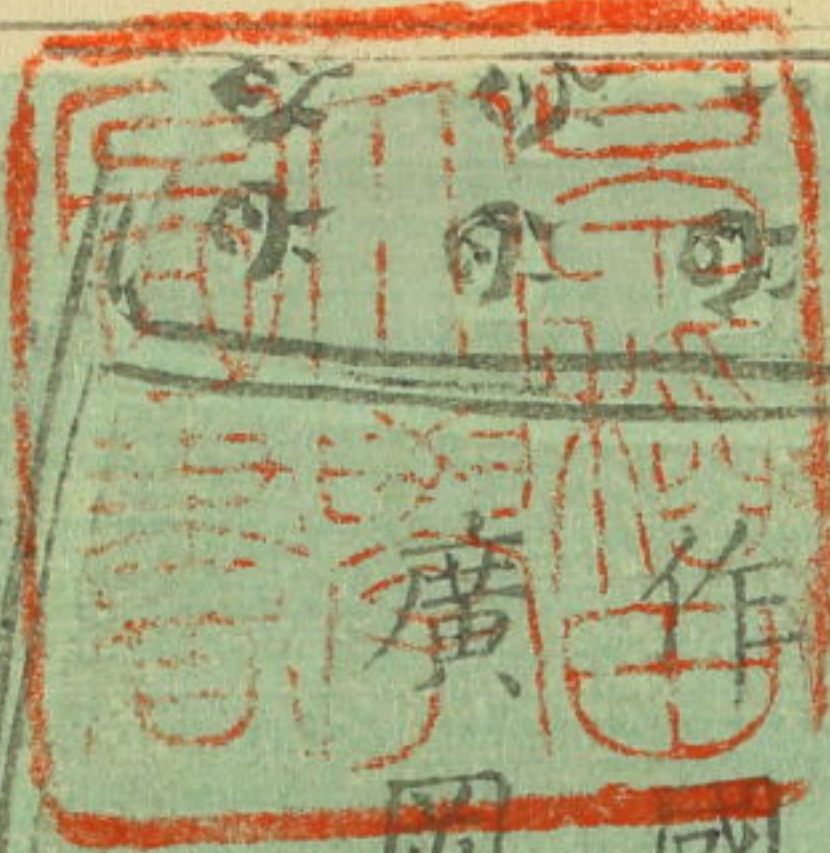


白縫物語三十

三編上册種員

國貞画板元

廣岡屋壽梓



國貞
畫

三十三編下



後者

物
持

種
員
紀



志
ら
熱
花

三十三編上



題出豆園

去之已
毛能
之理
種負化
國真画



三拾四編下



三拾四編上

廣幸版



志高の忠飛標

三十四海の下

種員化

國貞画

榮壽堂

花梅

一人愚弱体の狂歌行まう頃。六体美しくて笑ふべき所あり。狂といふ名を何
 と心得るる。天明風調こそ狂哥なれと論及てかきかき。歌舞妓狂言と号
 する。滑稽場を主とせず。秋嘆の利。踊躍の上手にあらざれば魁伶と貴重ぬとも難
 する。是れは膝栗毛八笑人の類をこそ。戯作といふべき。小怪談や人情本。戯
 たる所。希う。合巻。近頃可咲のの強。慶も彩色も幽寂をいふ。聞の引出し。
 漂々所。口画。威勢。有て可。注文。戯字の論を誰とらん。按ふに古
 狂歌といふ。自己歌を卑下し。語。戯作。由。文学研究の間。鬱散の戯作と云
 意。この時。その体。指。非。揚。技。と稱。て。黒。文字。を用。ひ。茶。屋。茶。を。樂。南。と。酒。者
 勸。む。こと。陳。謝。ある。ま。じ。此。草。子。菊。地。と。目。け。實。は。さ。ぬ。物。語。と。考。ぬ。ひ。し。る。
 あり。と。い。ふ。と。そ。こ。戯。作。と。名。め。た。ま。ぬ。取。立。と。有。る。と。い。ふ。

校者柳亭種彦述





大友
岩太郎

市原左門女
綾織



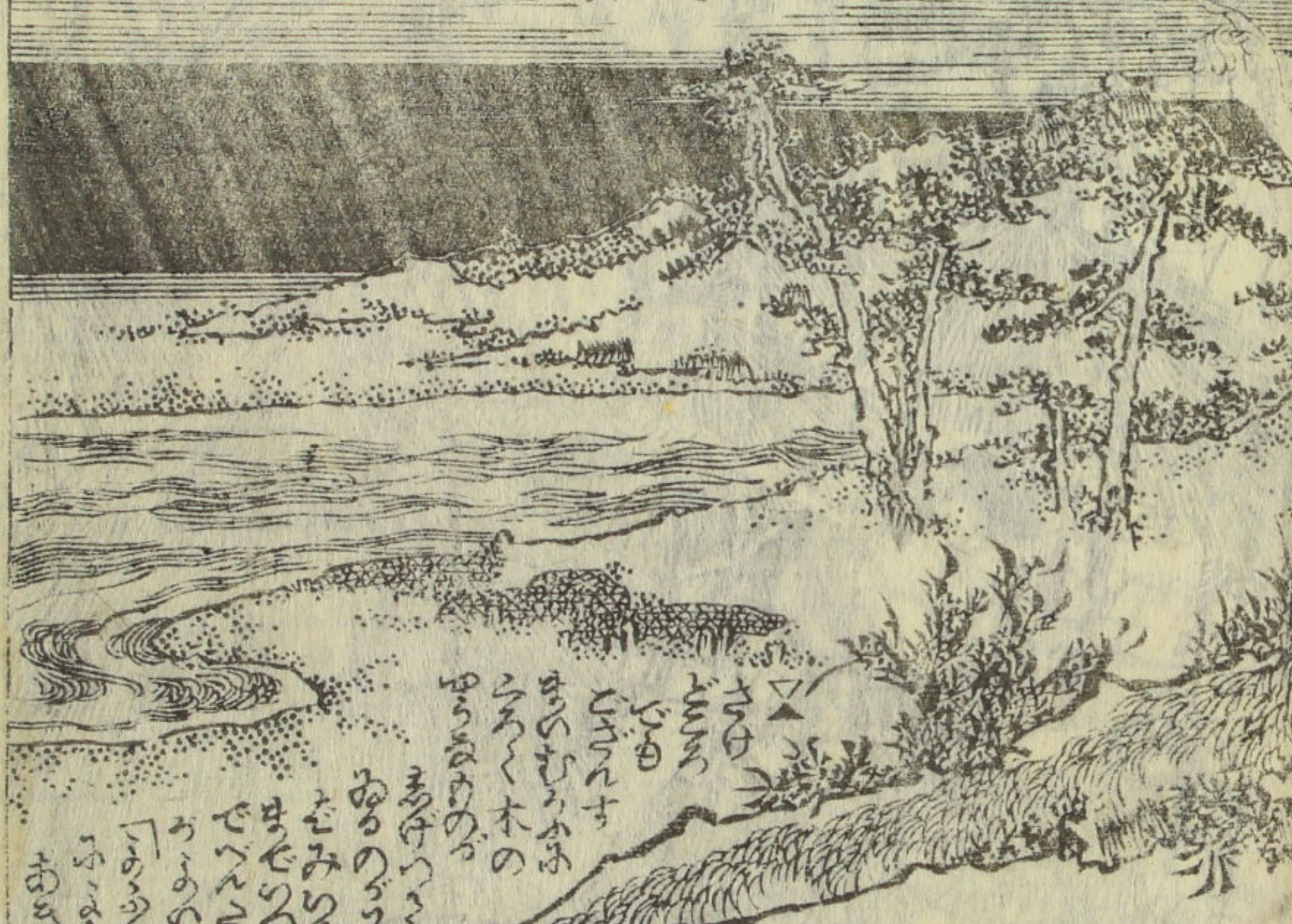
曲女

よきみ
かてん
藤のまね
まろ
まろ
まろ
まろ
まろ



〇夜ハ
 以中ハ小
 月夜ナ
 月夜ハ川
 づまの竹

〇夜ハ
 以中ハ小
 月夜ナ
 月夜ハ川
 づまの竹



〇夜ハ
 以中ハ小
 月夜ナ
 月夜ハ川
 づまの竹

老の舟 二十三

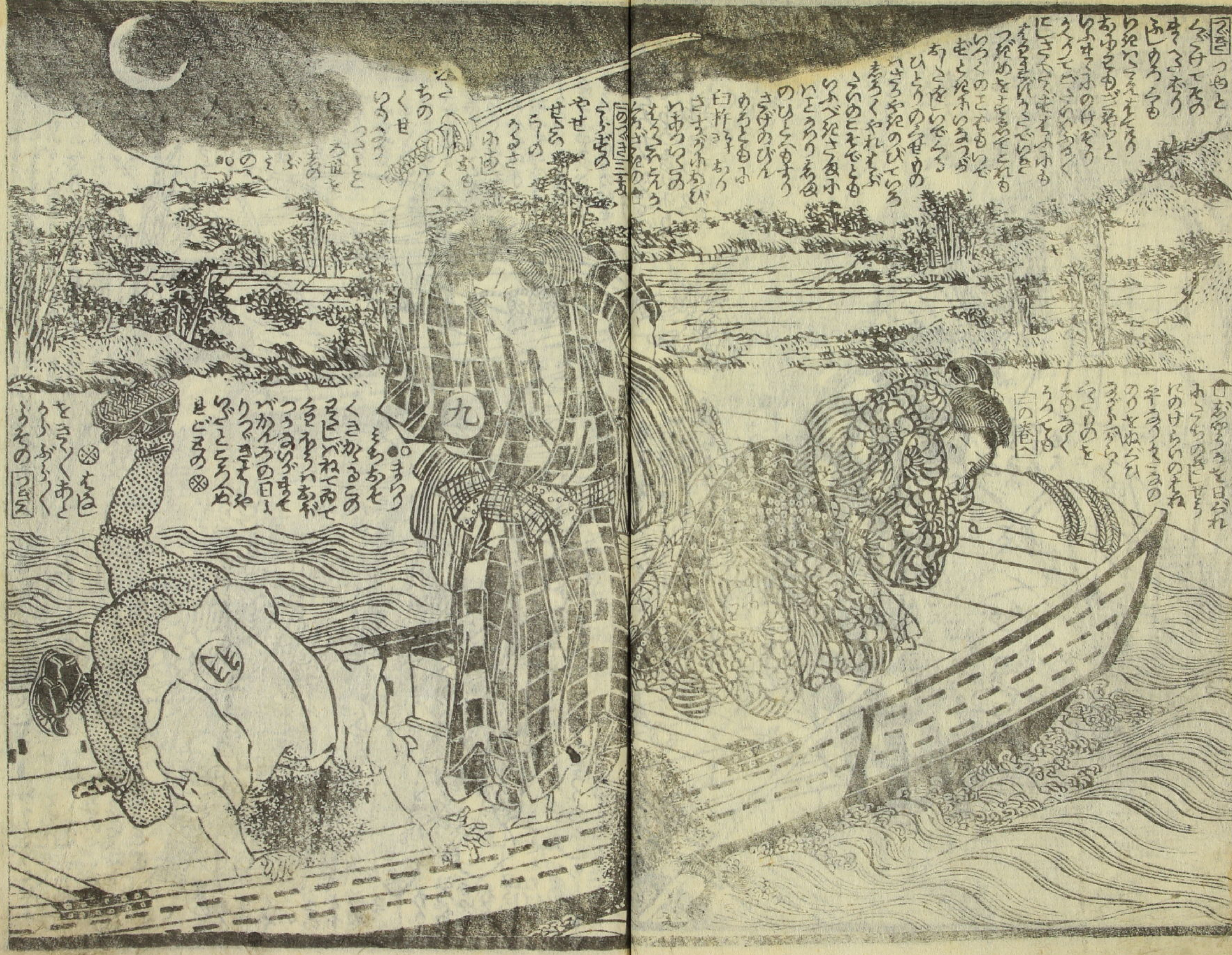
二十三

つとと
くちてその
きつさる
ふゆらも
りねてええと
あゆまゆと
りまふのせ
えつてい
にまてま
つためを
りくのこ
ととね
あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち
白折時
さす
りあ
まろく

あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち
白折時
さす
りあ
まろく

あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち

あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち



あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち

あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち

あつた
ひとの
まろく
このこ
りふ
のひ
まの
ゆち



あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

たうとある
ちの

二の巻のついでに
あつひあぢのあへか
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり
あつひあぢのあへか
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

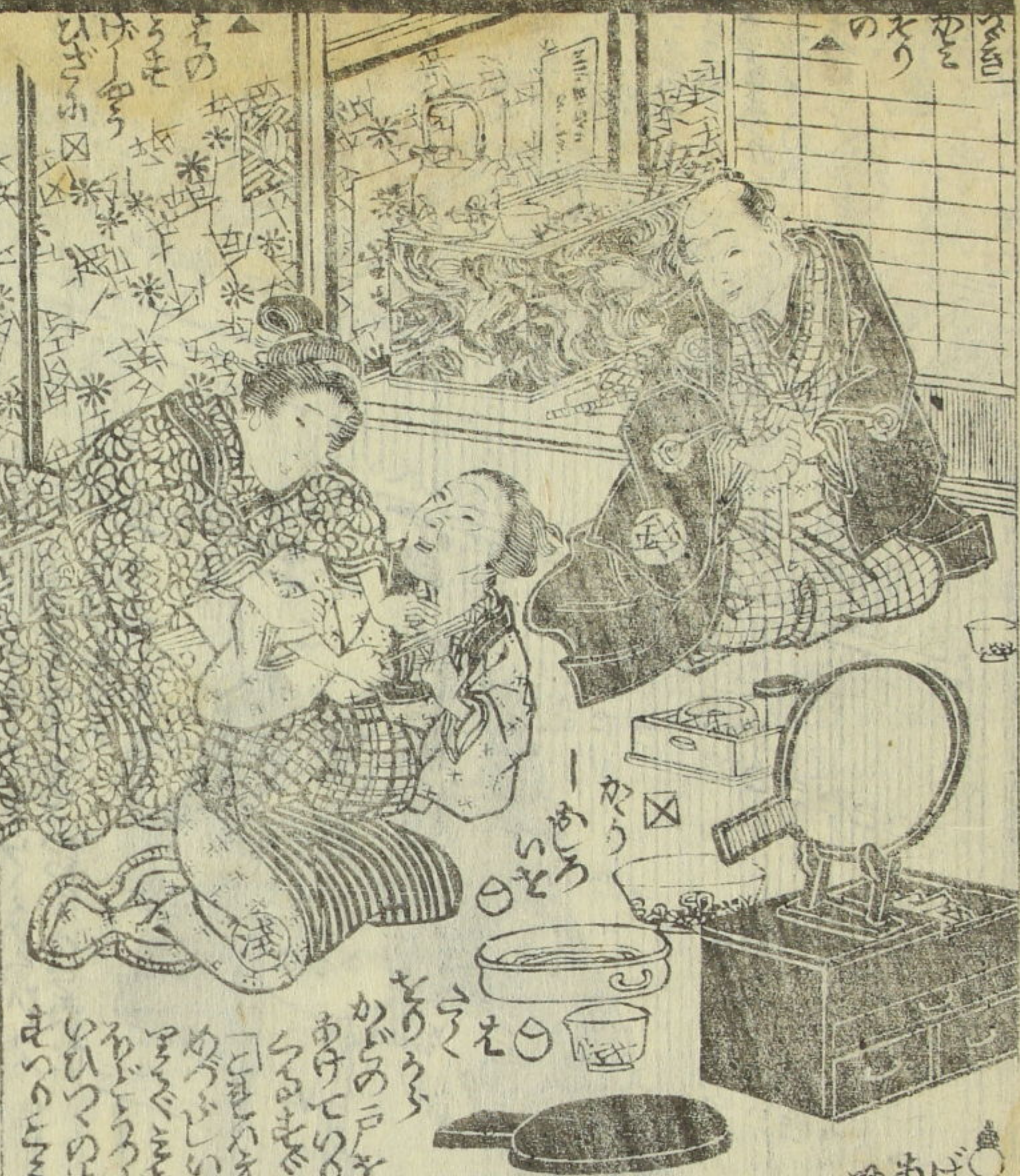
あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

青柳春之助年正

此画の
分解ハ
廿六編説を俟せ

あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

柳亭種彦 種員稿國貞画



あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

あつひあぢ
まをちかちかめらるあへか
まをまはるのこまへせり

又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

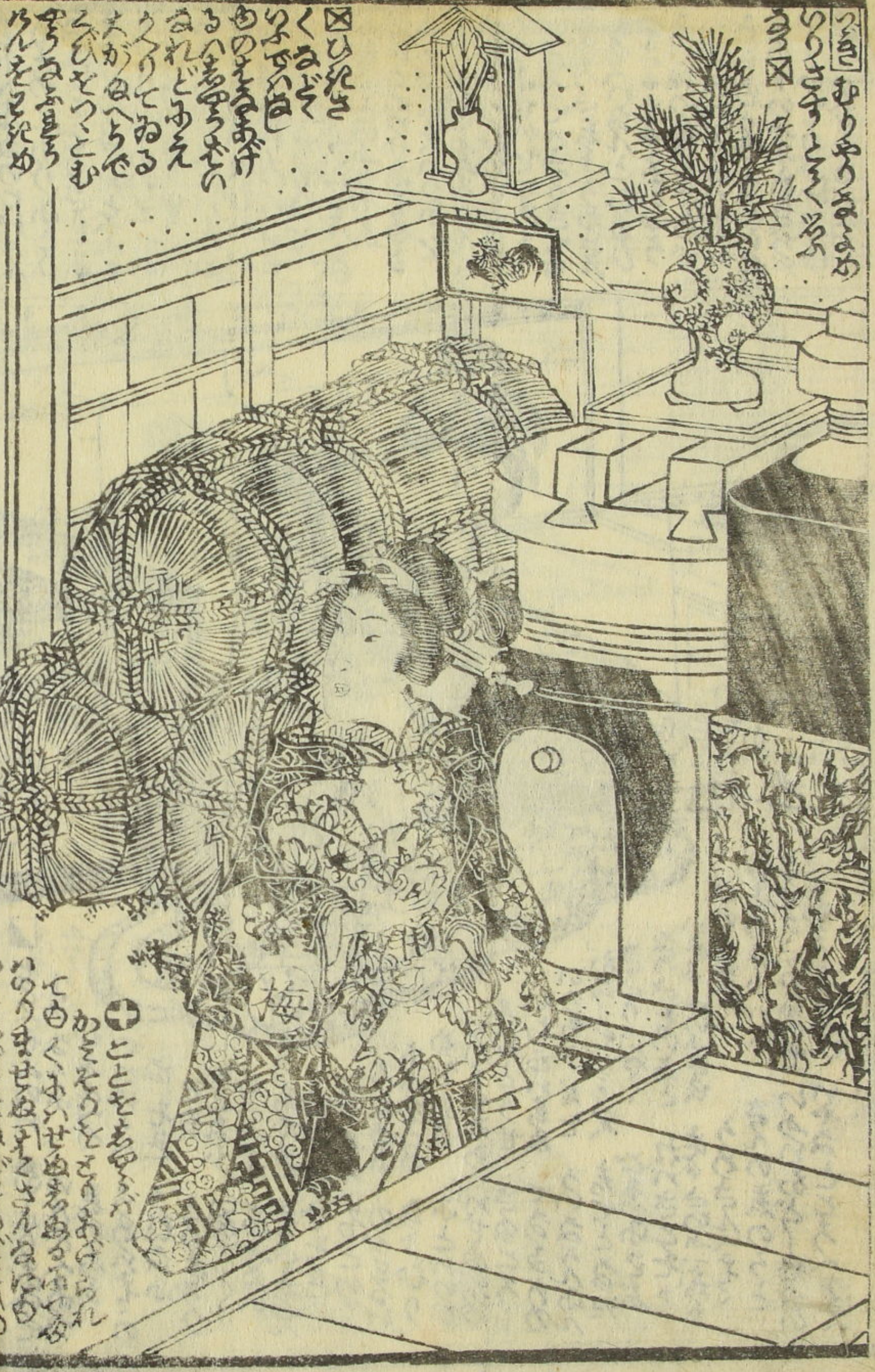
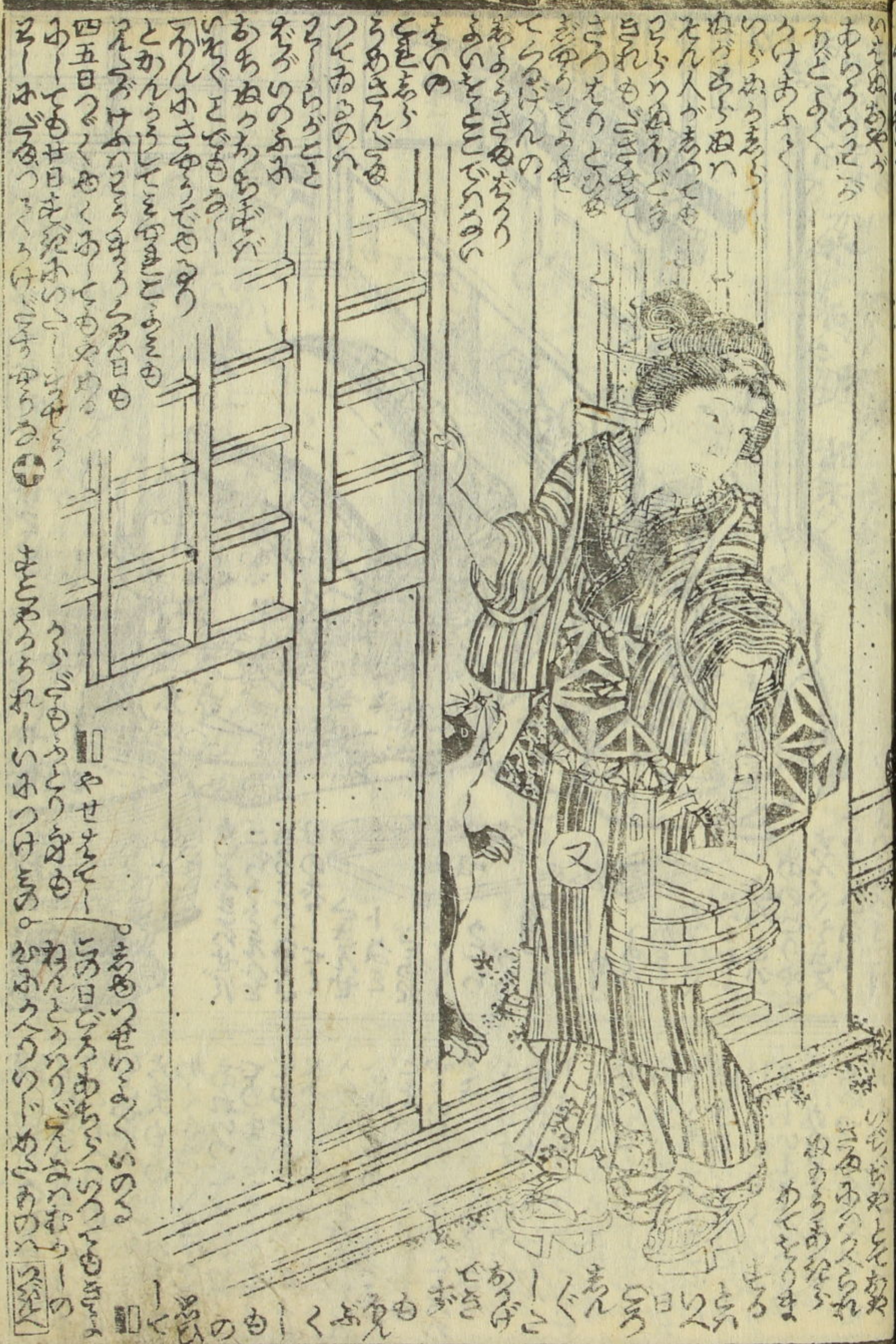
又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

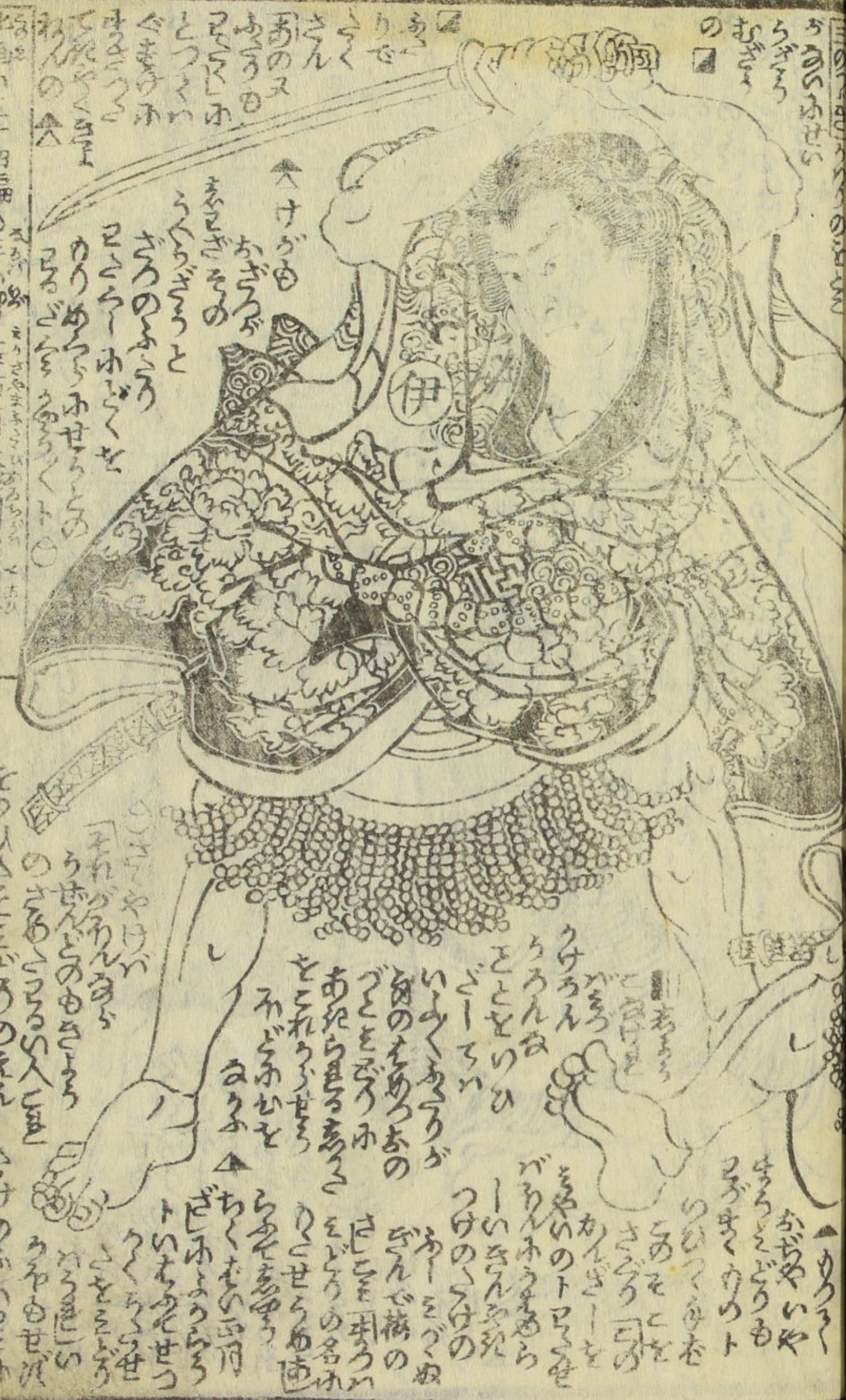
又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

又
 梅
 此の如きもの
 は
 日本に
 生るる
 梅の花
 である
 と
 言はれ
 る。

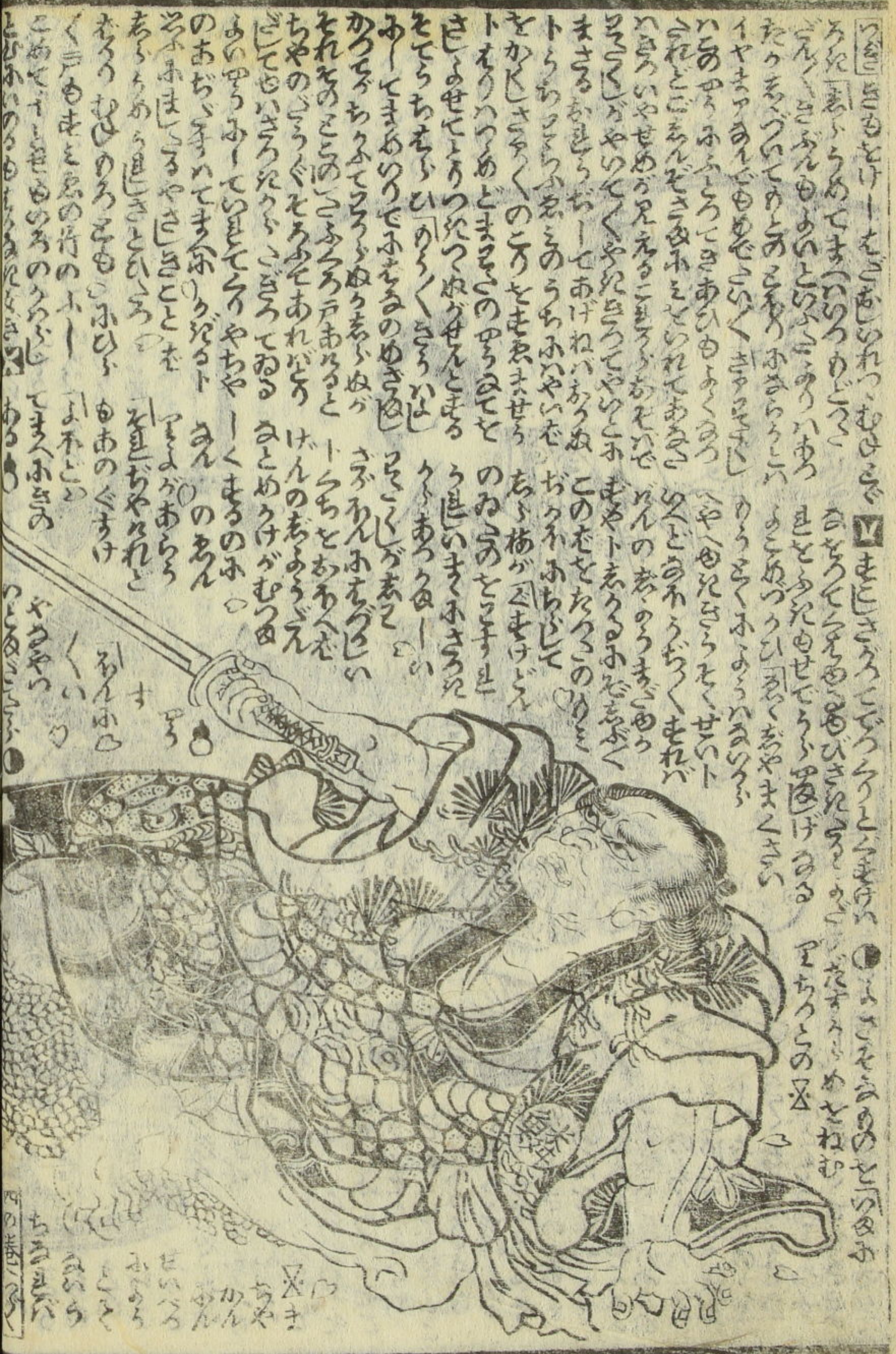


此曲の二十四編の半おかし三三三三再大蛇川の出合まう
らおそのおしおしを示し看官の御く海をひたなてる



そのひらくをさうりのおん
かたのうらみおしおし
さかひのうらみおしおし
さかひのうらみおしおし

おぢやけり
うせんとのもさう
のさおのうらみおしおし
おぢやけり
うせんとのもさう
のさおのうらみおしおし



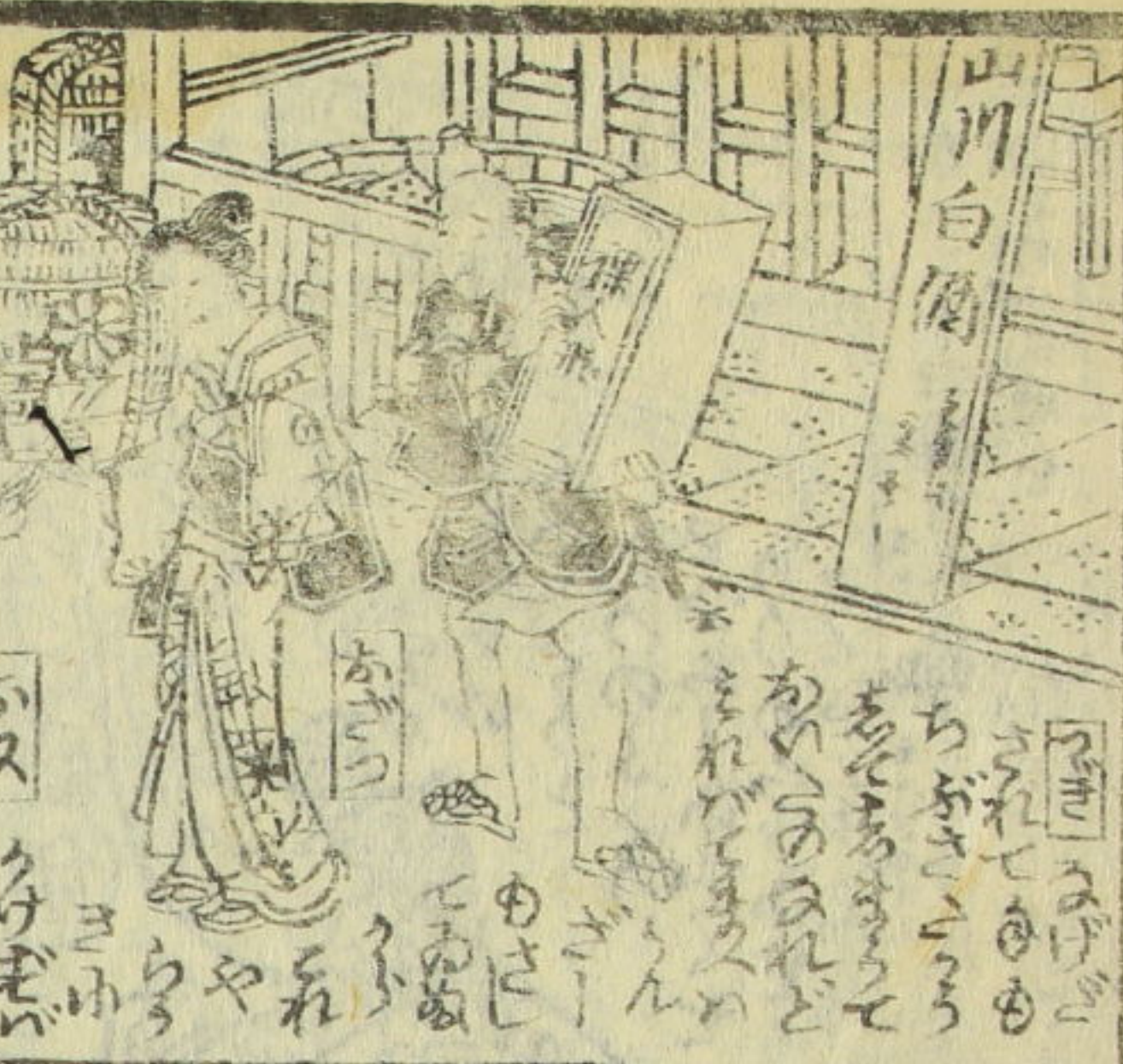
おぢやけり
うせんとのもさう
のさおのうらみおしおし
おぢやけり
うせんとのもさう
のさおのうらみおしおし

おぢやけり
うせんとのもさう
のさおのうらみおしおし
おぢやけり
うせんとのもさう
のさおのうらみおしおし



つらうかきかき
 らうのあつた
 まておられ
 トヒとんちわ
 めう

あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた



山川白濁
 あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた



あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた

あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた
 あひのり
 まつた

柳下亭種員稿

一壽時齋國貞画

柳種合
亭彦



△ちりちり
あやうと受ハ
あひまひ
あひまひ
あひまひ
あひまひ

かんの
あまの
あまの
あまの
あまの

備書
交來

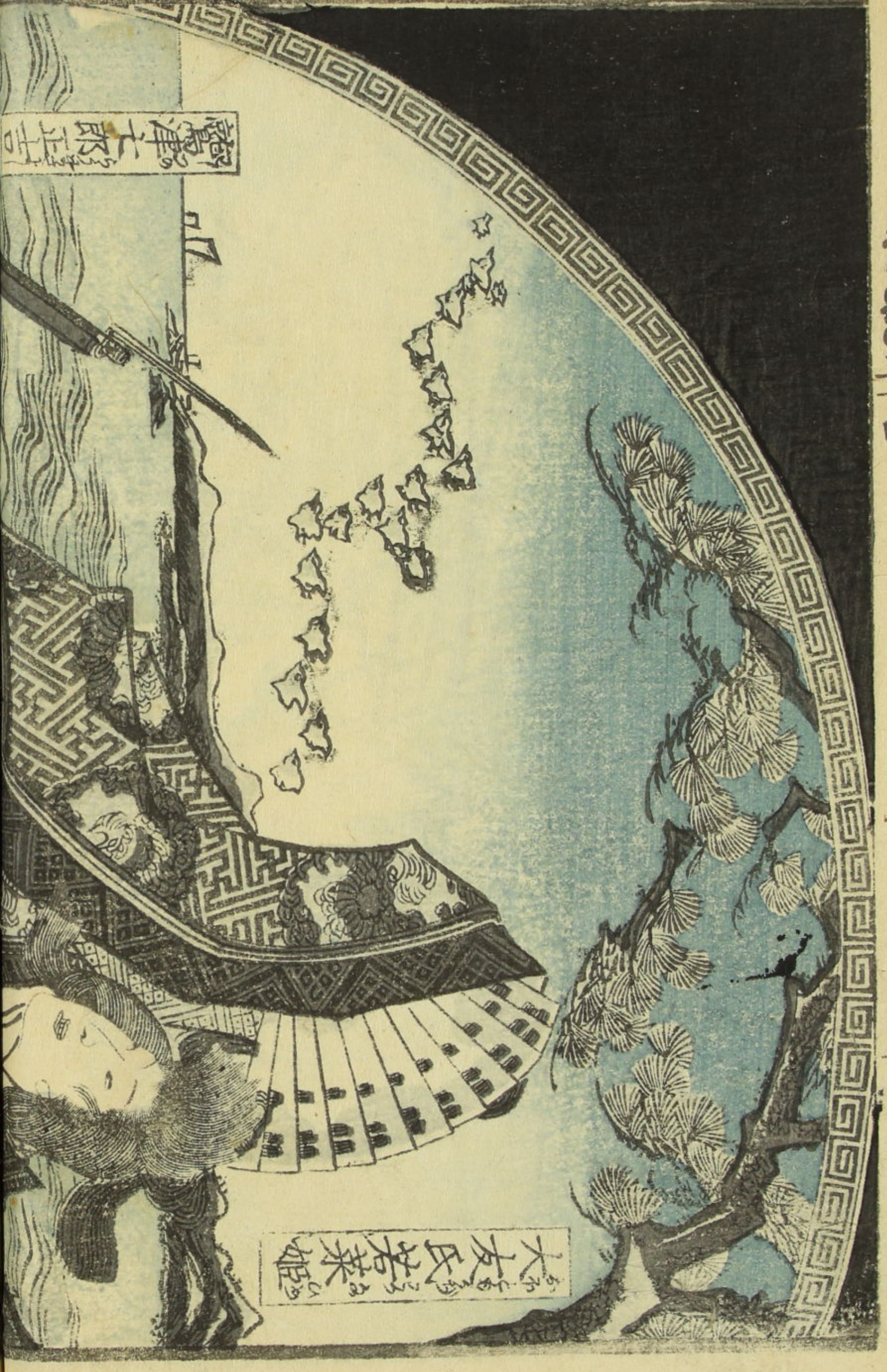


柳種合
亭彦
柳種合
亭彦
柳種合
亭彦
柳種合
亭彦

西の海
東の海
南の海
北の海



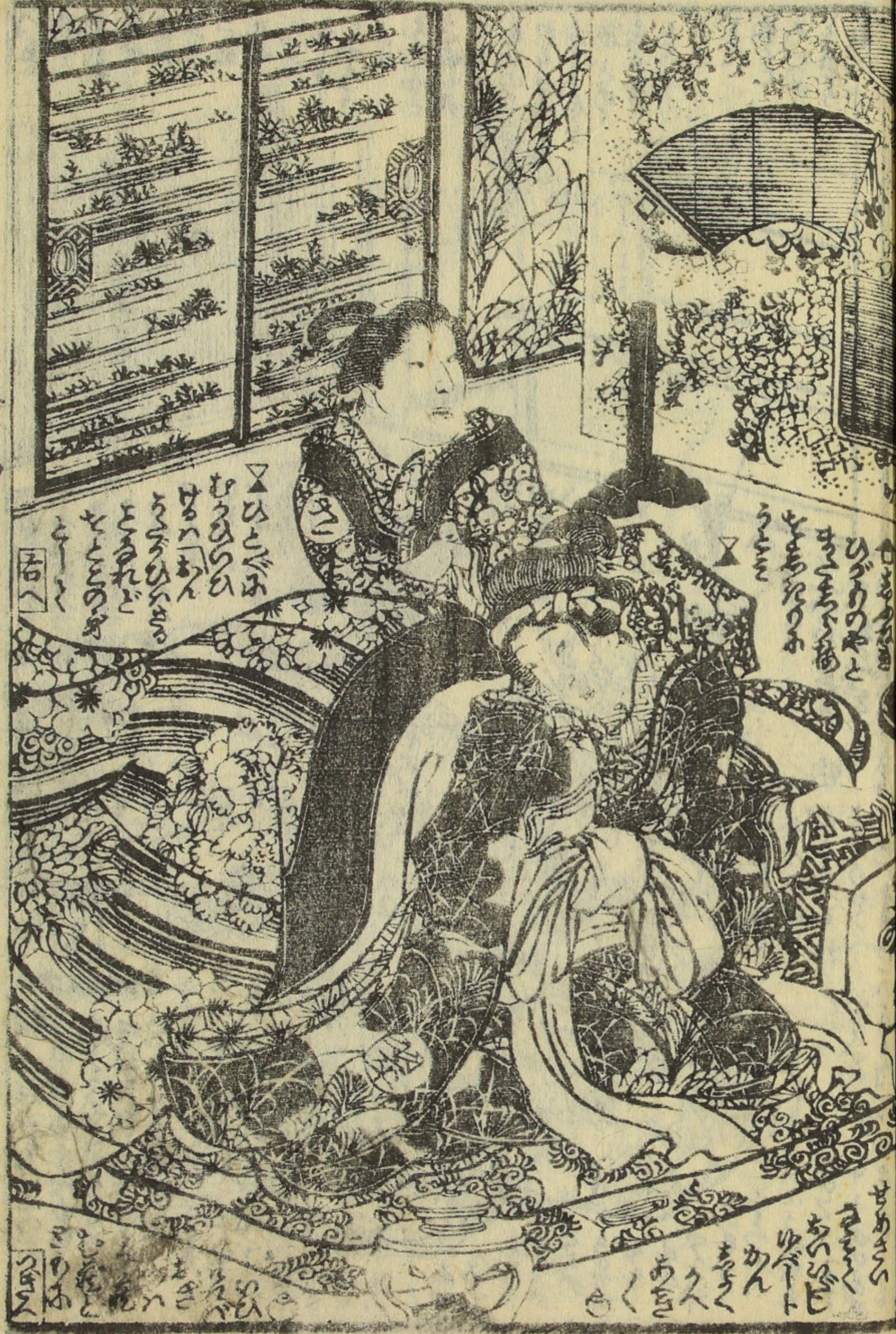
大友氏若菜姫



大友氏若菜姫

大友氏若菜姫

大友氏若菜姫



ひとひ
むらさき
うすしほ
とまね
とまね

ひつり
まはら
うすしほ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ



おまはび
かみ白梅の
めづりも
せいの
名ハ西立ち由

名ハ西立ち由
うすしほ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

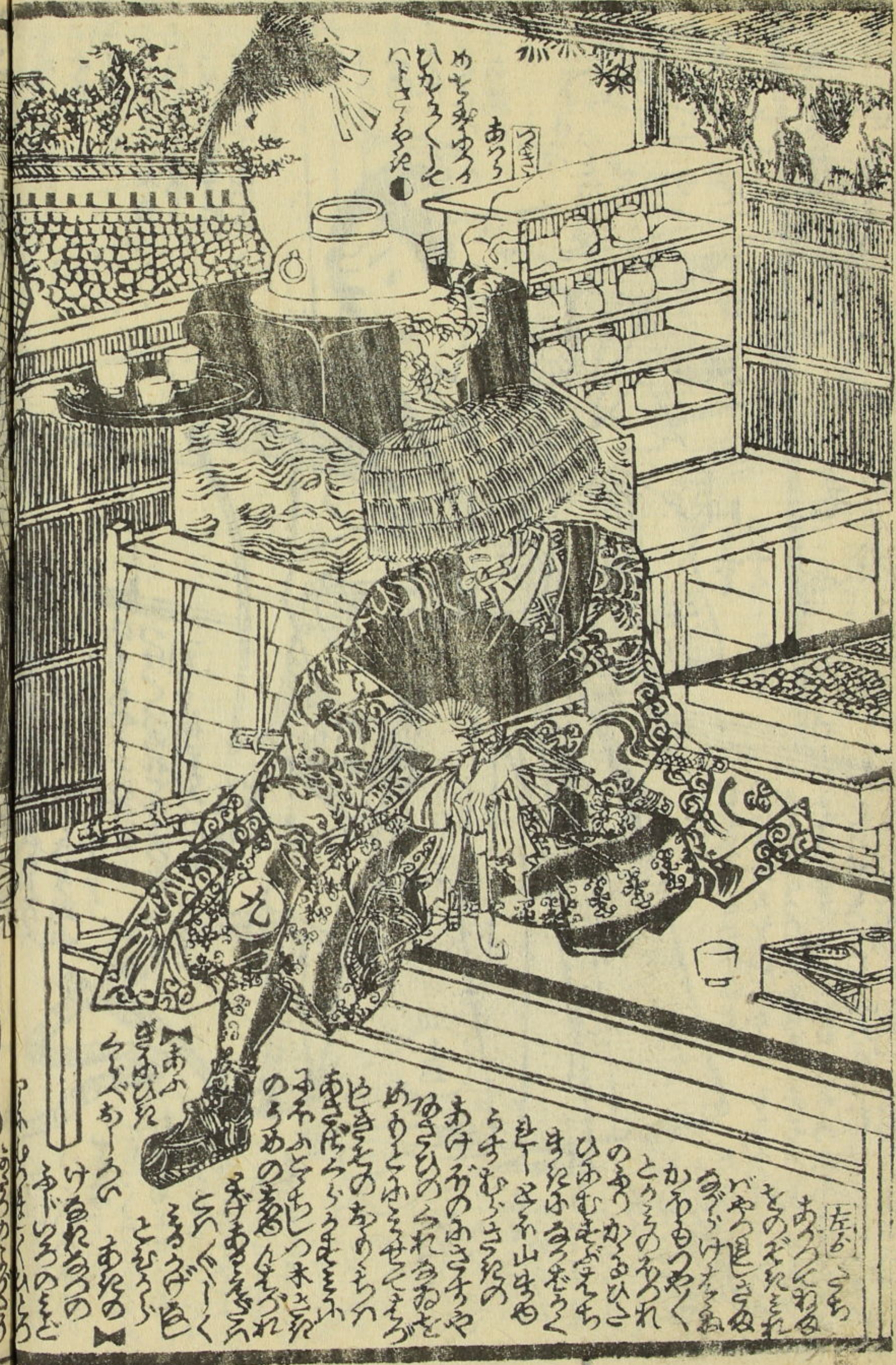
あはれ
あはれ
あはれ





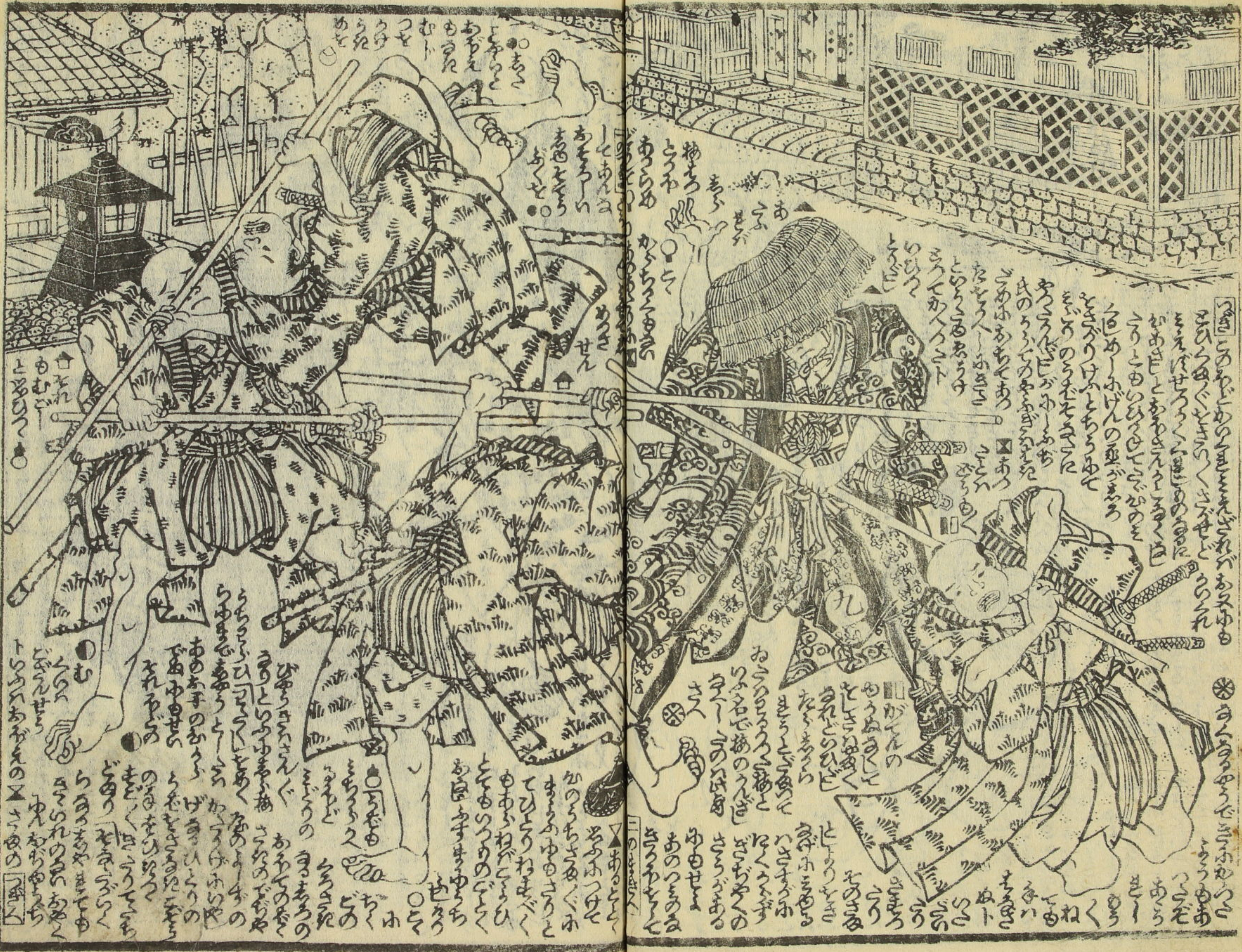
三十四

五



三十四

四



まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

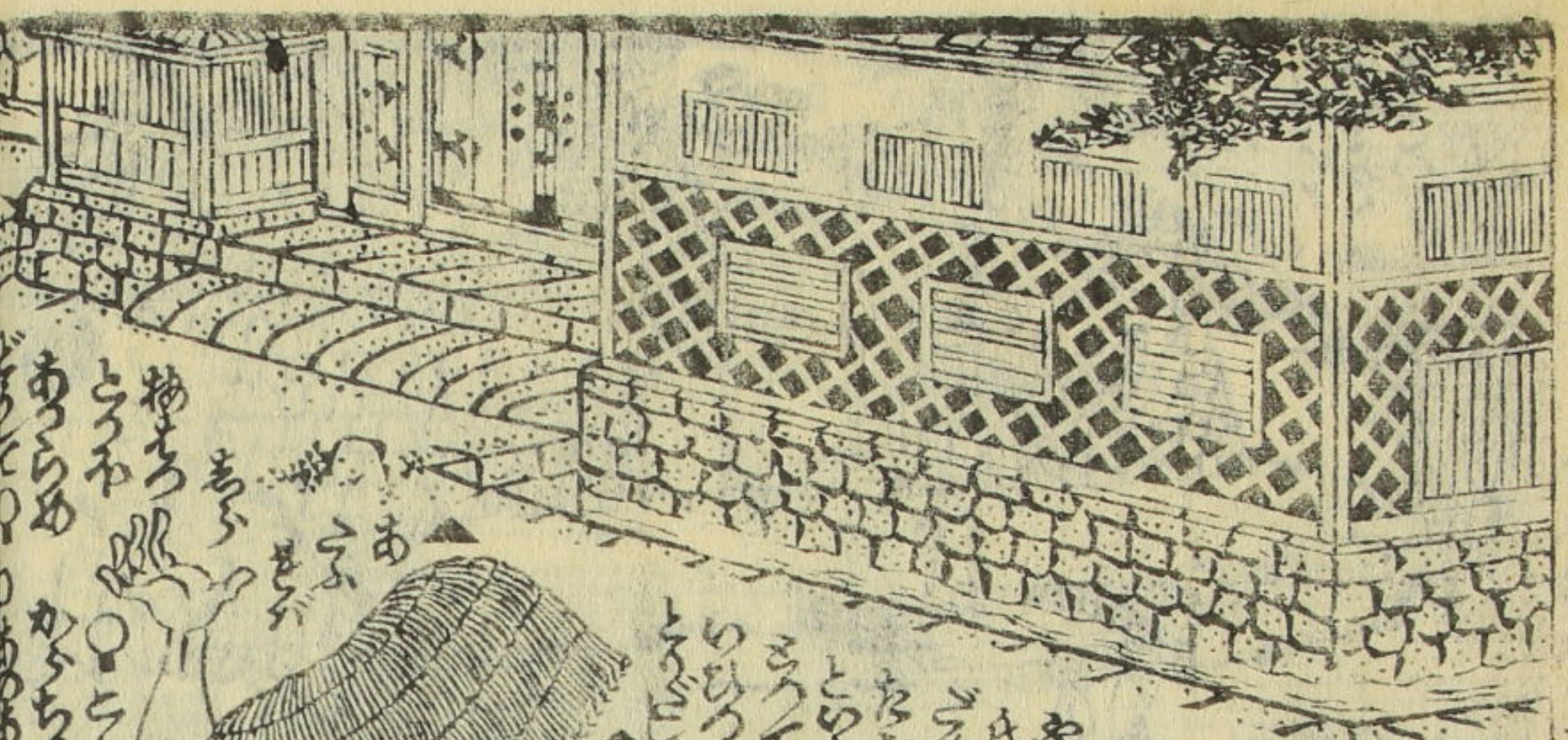
まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

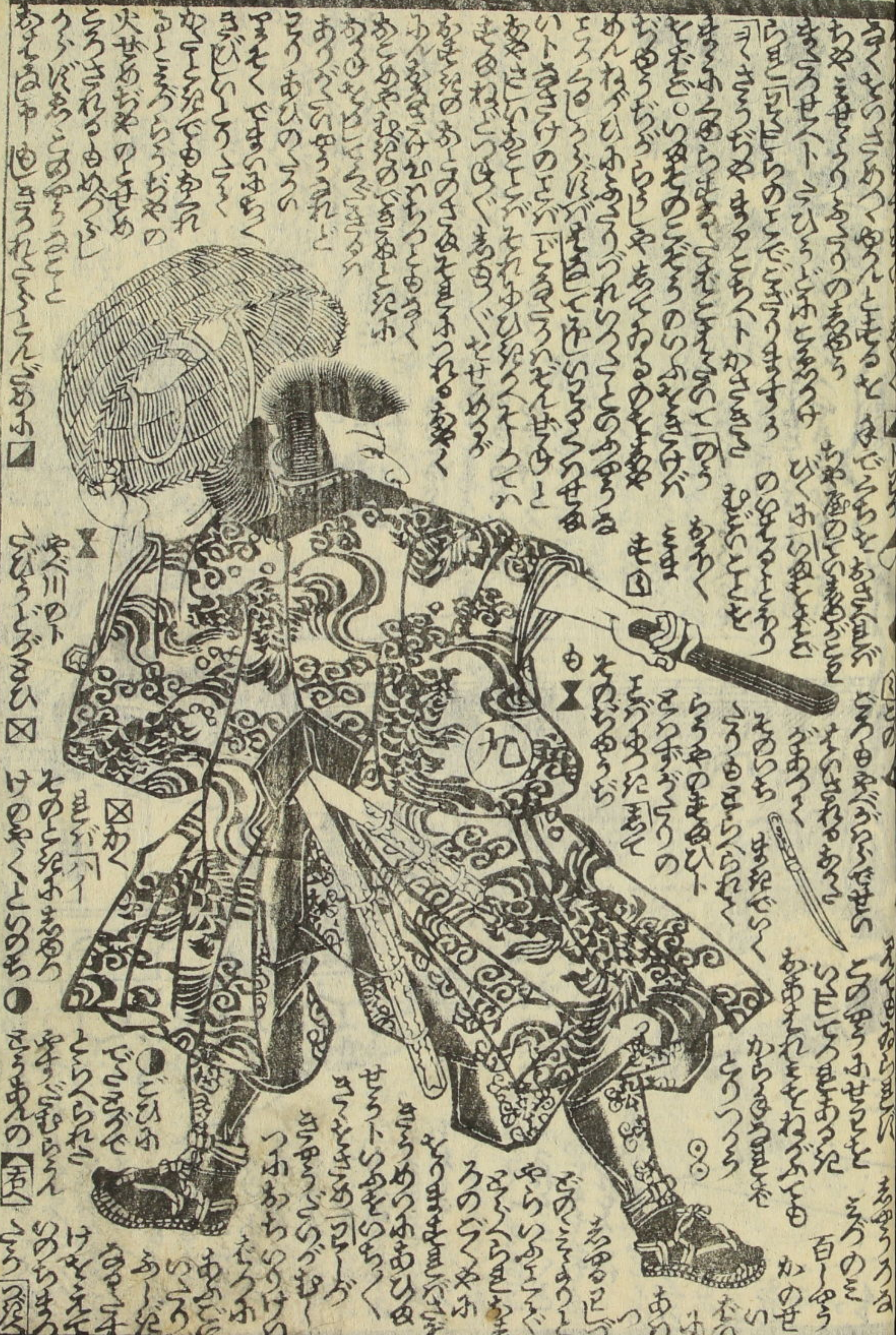
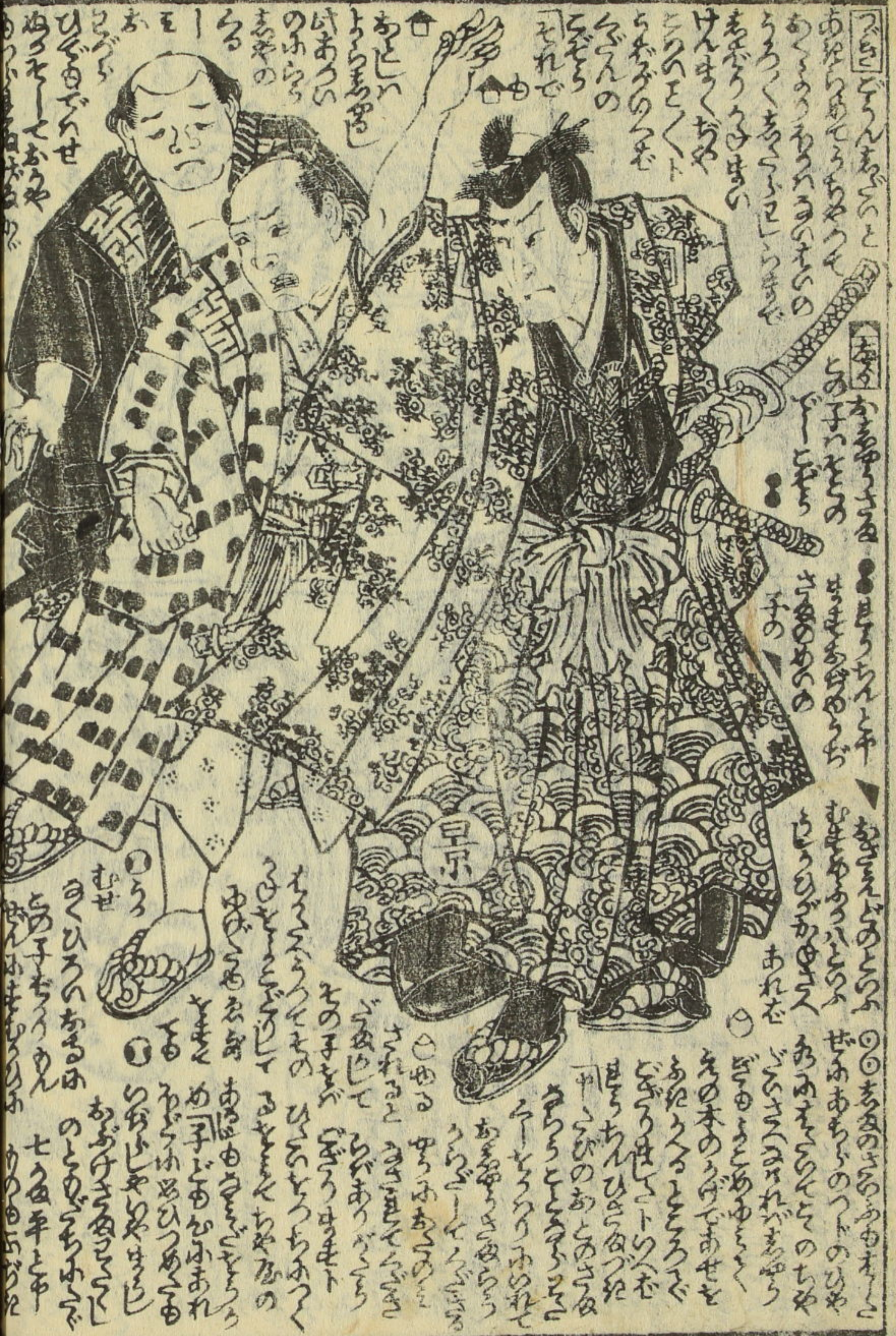


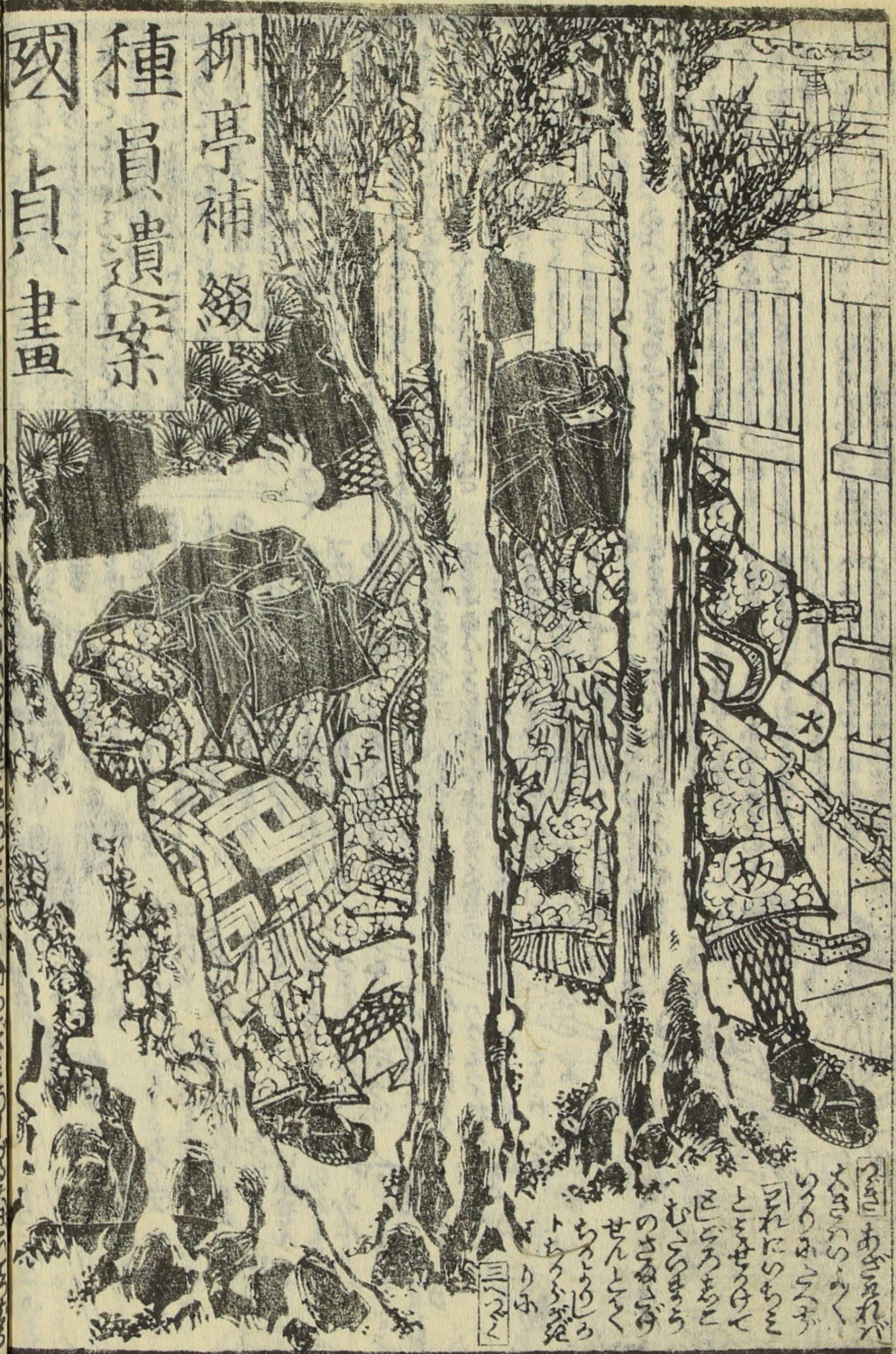
まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

まはるゝ...
しる...
しる...

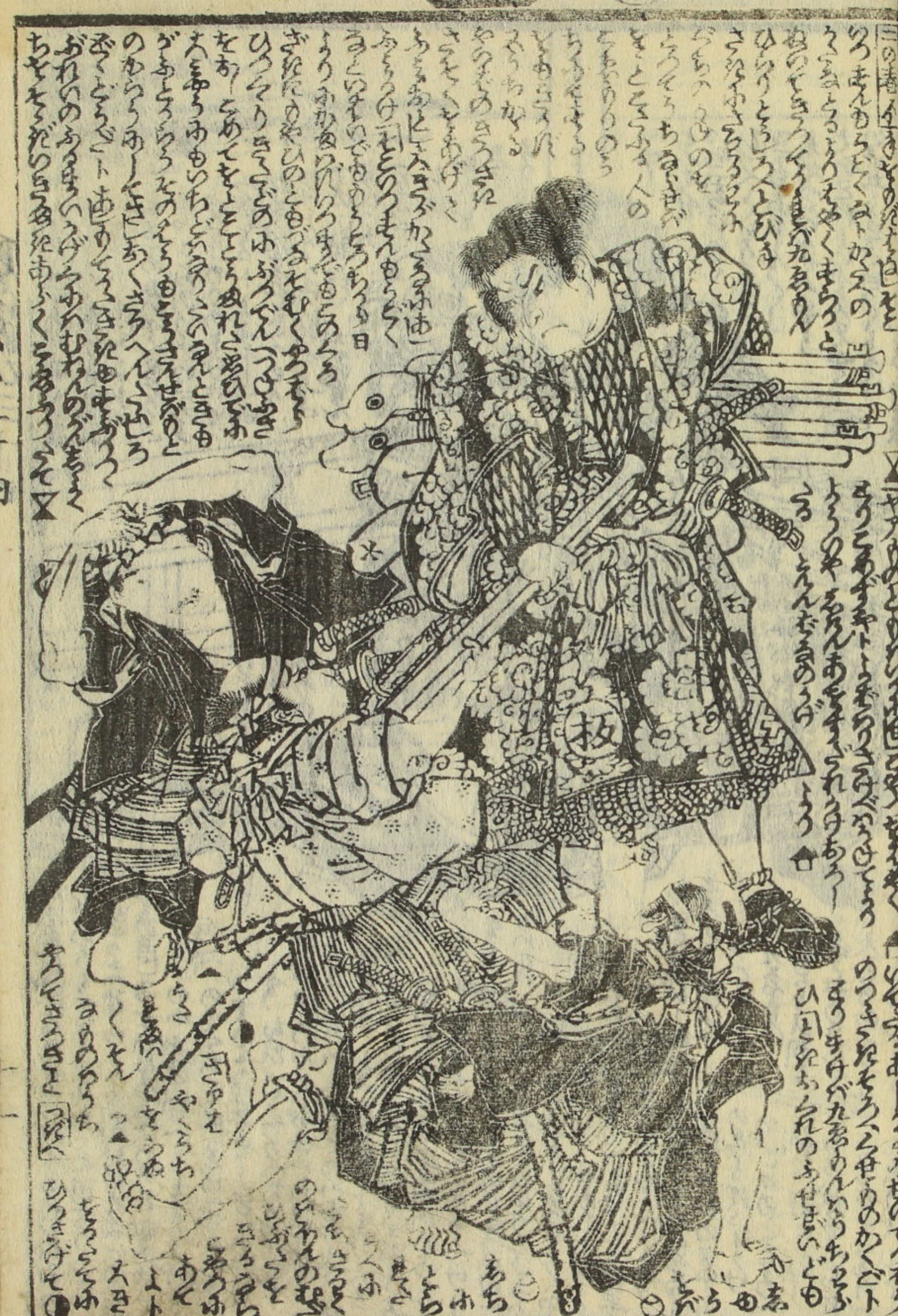
まはるゝ...
しる...
しる...





柳亭補綴
種員遺案
國貞畫

このあきれた
大さのうへ
りりあふち
目れたさち
とせせつて
にらまひ
むらさち
のさぬが
せんとう
ちんしう
トあつた
りふ



このあきれた
大さのうへ
りりあふち
目れたさち
とせせつて
にらまひ
むらさち
のさぬが
せんとう
ちんしう
トあつた
りふ

このあきれた
大さのうへ
りりあふち
目れたさち
とせせつて
にらまひ
むらさち
のさぬが
せんとう
ちんしう
トあつた
りふ





かぜの五つ水門なるはたし
くもつと六つ水門なるはたし
たつと七つ水門なるはたし
まへと八つ水門なるはたし
うしろと九つ水門なるはたし
あはれと十つ水門なるはたし
おどろきと十一つ水門なるはたし
おそろしと十二つ水門なるはたし
おどろきと十三つ水門なるはたし
おそろしと十四つ水門なるはたし
おどろきと十五つ水門なるはたし
おそろしと十六つ水門なるはたし
おどろきと十七つ水門なるはたし
おそろしと十八つ水門なるはたし
おどろきと十九つ水門なるはたし
おそろしと二十つ水門なるはたし

おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと

ちよとせとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと

おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと
おののとはらうとせと
はらうとせと



三日月の影を
 照らす月夜に
 立寄る侍の
 姿は 凛々たる
 風流ありて
 誠実なる
 心持の
 表れに
 見ゆる
 侍の
 誠なり

侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり

侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり



侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり

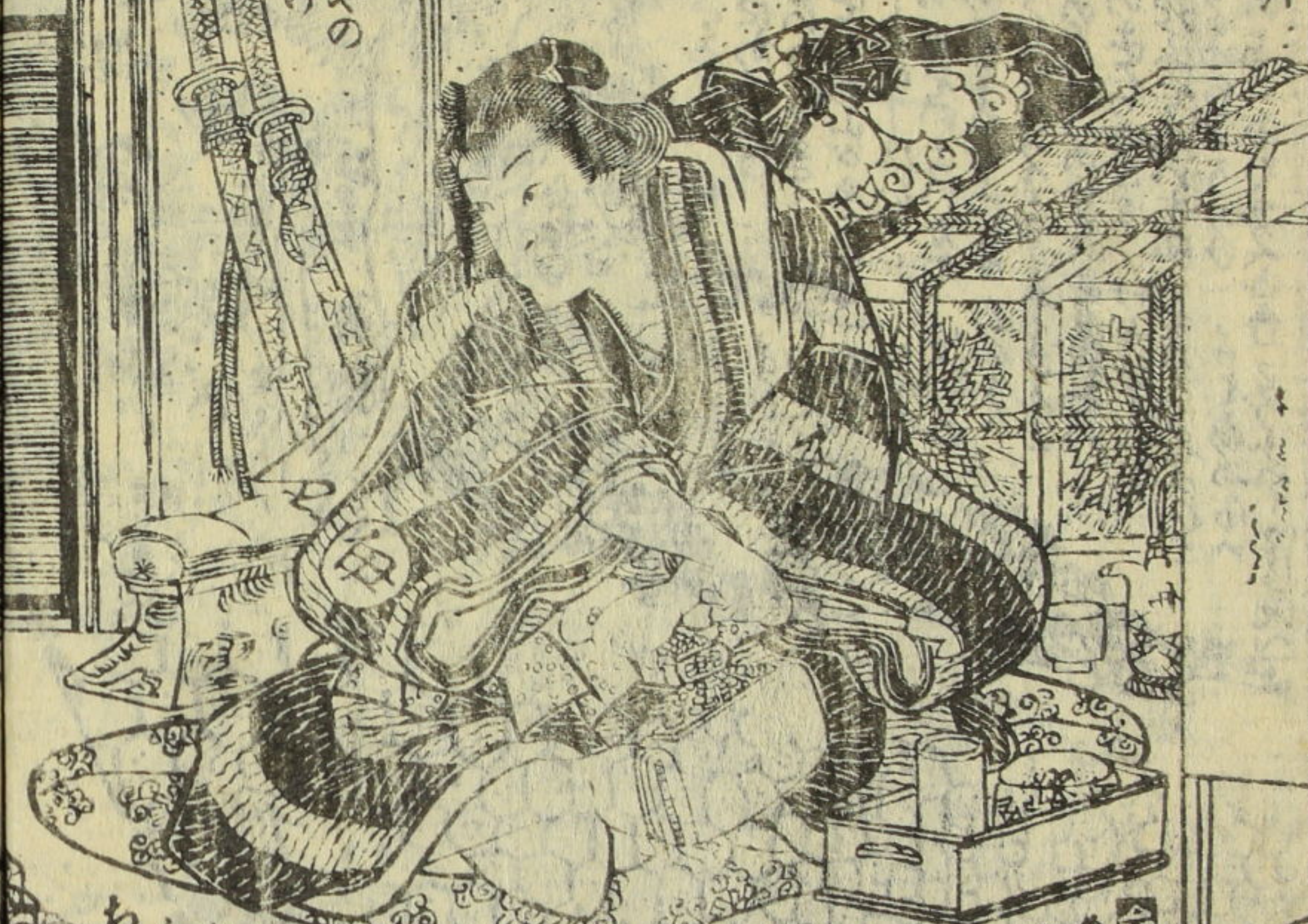
侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり

侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり
 侍の
 誠なり

侍の誠なり

侍の誠なり

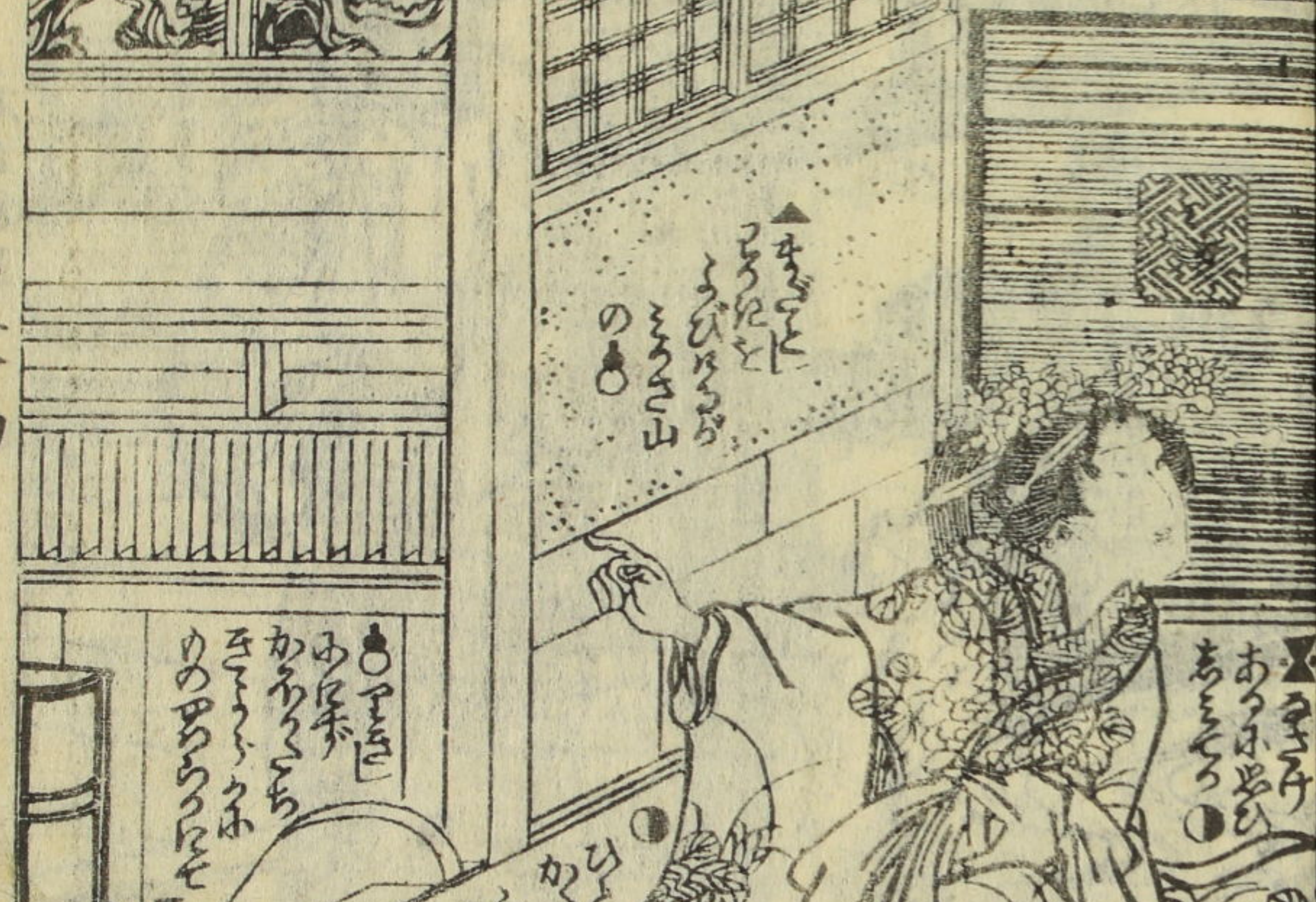
きんかき
のうら
ちか
のうら
のうら



あつ
あつ
あつ
あつ

この世の中は
あつあつと
あつあつと
あつあつと
あつあつと

あつあつ
あつあつ
あつあつ



あつ
あつ
あつ
あつ

この世の中は
あつあつと
あつあつと
あつあつと
あつあつと



左の如きのものありては...
あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...

あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...

あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...

あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...

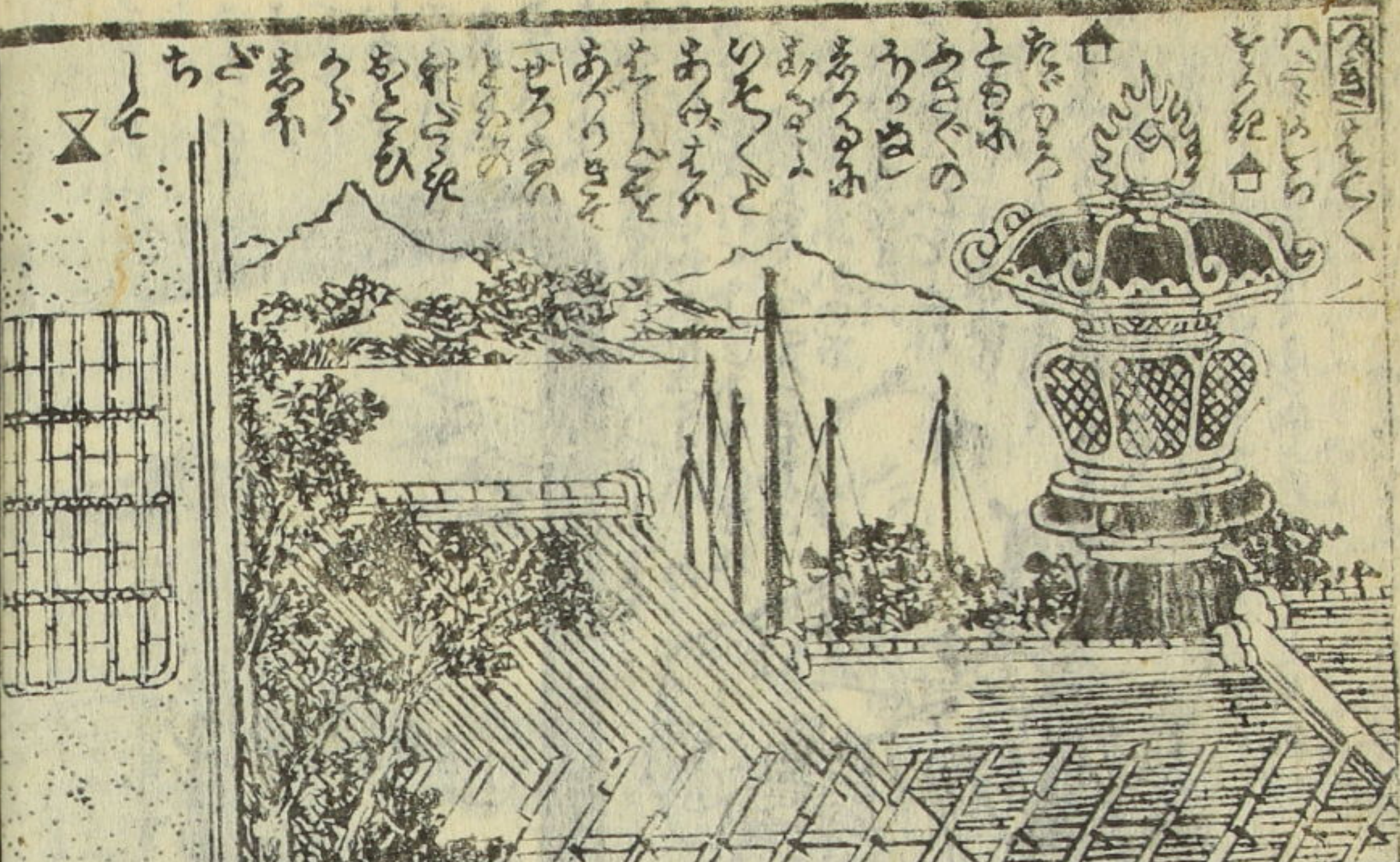


あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...

あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...
あはれひのち...



Small text labels and annotations surrounding the top-left illustration.



Small text labels and annotations surrounding the top-right illustration.



Text annotations and labels surrounding the large central illustration of the man playing shamisen.



Text annotations and labels surrounding the large central illustration of the woman playing shamisen.

種員稿本 國貞画圖

種員稿本とは、種員が書いた原稿を指す。國貞画圖とは、國貞が描いた挿絵を指す。この種員稿本には、種員が書いた原稿と、國貞が描いた挿絵が収録されている。種員が書いた原稿は、種員が書いた原稿を指す。國貞が描いた挿絵は、國貞が描いた挿絵を指す。この種員稿本には、種員が書いた原稿と、國貞が描いた挿絵が収録されている。



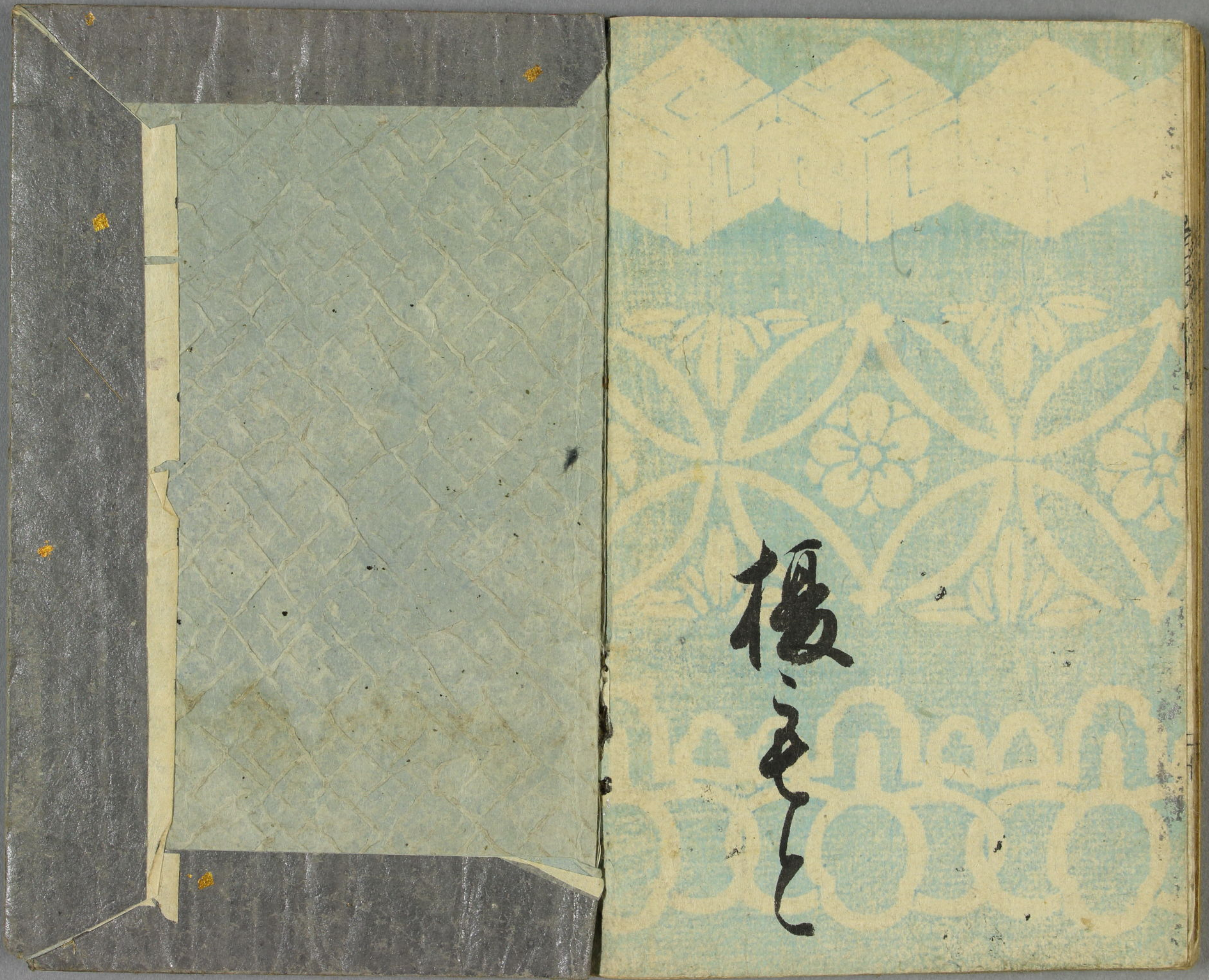
柳亭種彦校訂

七草四郎 若菜姫
 志々慈心禪
 四十五編 柳亭種彦作
 四十六編
 四十七編 一惠齋芳幾画

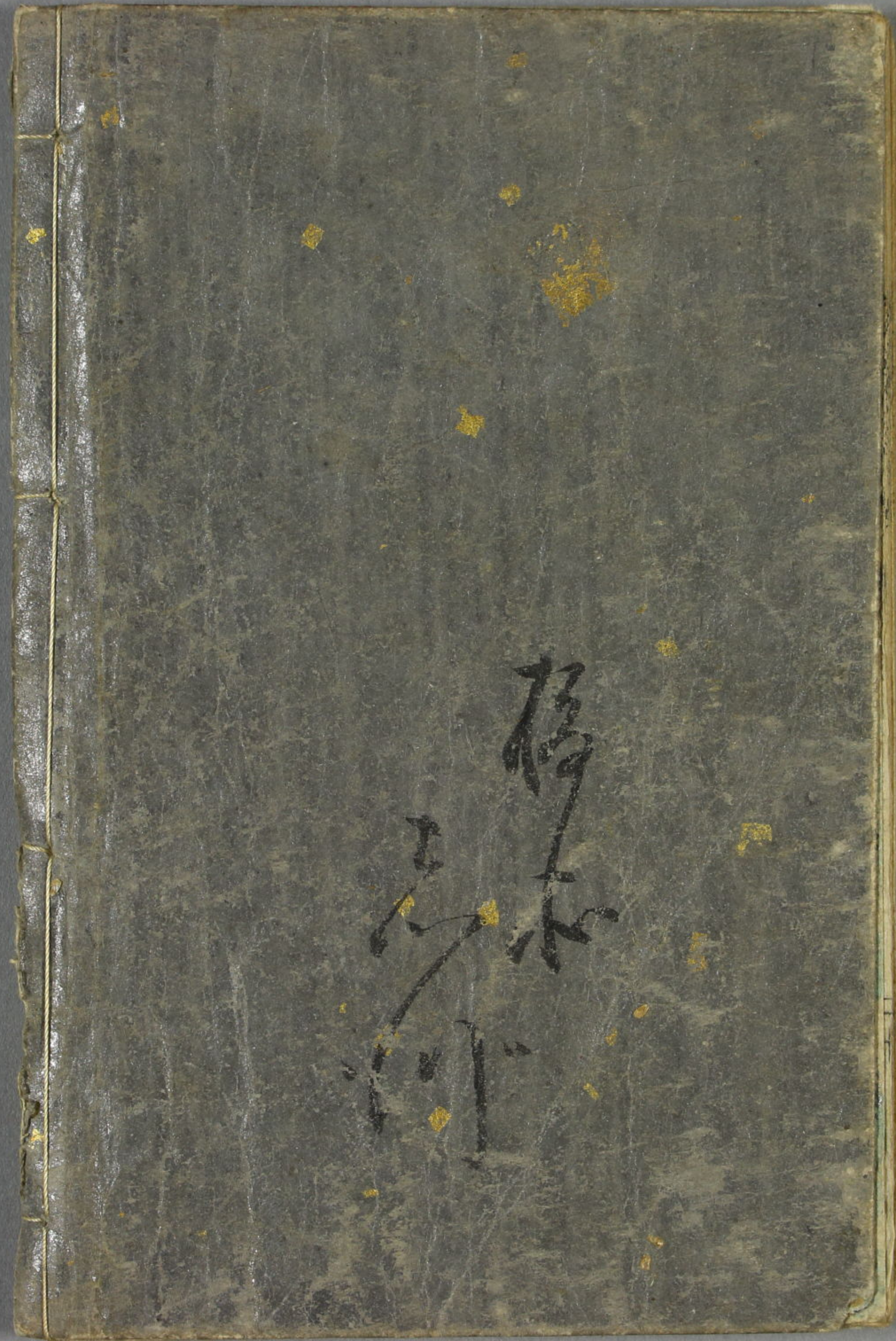
よみか 大傳
 廿八編 假名垣魯文録
 廿九編
 三十編 朝霞樓芳幾画

忠臣の功 柳春秋色櫻 近刻
 山々亭有人作
 一惠齋芳幾画

地本草紙問屋深川佐賀町廣岡屋幸助版



復
元



蔣志